



## さあ、仕上げの時 立派なしっぽをつけましょう

3学期の初日、「お母さんに会いたい！」と言って泣き出した1年生がいたそうです。長い夏休み明けにも無かったことなので少し意外でしたが、きっと年末から年始に、親子の素敵な触れ合いがたくさんあったので、離れ難くなくなってしまったのでしょうかね。

そんな1年生もすぐに生活のリズムを取り戻して、3学期が順調にスタートしました。

昨年3学期始業式には、辰年にちなんで「画竜点睛」の話をしました。

巳年の今年、「蛇」に関する諺などにあまりふさわしいものが見つかりません。そこで、マイナスのイメージにはなっていますが、「竜頭蛇尾」について話しました。

1、2学期にがんばって勢いがよかった子ども、最後のしっぽのところ(3学期)をしっかりやらないと、カッコいい竜にはなれません。竜にふさわしいしっぽをつけるためにがんばりましょう。



3学期は、それぞれの学年のまとめをしっかり行い、新しい学年に備える大切な学期です。また、6年生は、中学校に向けての準備の時間となります。

子どもたちみんなが、立派なしっぽをつけて、一回り大きな竜に成長できる3学期になるよう、ご支援ご協力をお願いいたします。

今週に入りインフルエンザで休む児童が増えています。健康に十分留意されるとともに、症状が見られた場合は、決して無理をさせないようお願いいたします。また、できるだけマスクの着用をお願いします。



## 遅れ馳せながら 名前をつけました

上の表題を見て、「何これ？」と思われる方もいらっしゃると思います。多くの場合、学校だよりには代々受け継がれた名前があります。因みに、藤井小は「揺籃だより」、稲葉小は「香童の柊」、羽生田小は「はにしのこ」となっています。

本校の学校だよりにはそういった名前が無く、少し寂しく思っていました。先日、本校の学校だより「第1号」を我が家の本棚から見つけることができました。平成元年11月に、当時の第5代校長印南英輔先生が、

『本校では、毎月「学年だより」が出されておりますが、「学校だより」はありませんでした。そこで、遅れ馳せながら、一念発起して学校だより「あゆみ」を出すことにいたしました。』

という書き出しで出されたのもです。印南先生は、南犬飼中、壬生中でも校長を務められましたので、ご存じの保護者もいらっしゃると思います。「印南先生が第1号を、そう言えばそうだったな〜。」ワープロ専用機が全盛の頃、人差し指一本でキーボードに向かわれていた姿が思い出されました。

そんなわけで、印南先生の名文には遠く及びませんが、遅れ馳せながら学校だよりの名前を「あゆみ」としたいと思えます。

残念なことに、印南先生は昨年1月に亡くなられました。一周忌ということもあり、天国できっと喜んでくださることと思います。

校長室には歴代校長の写真があり、睦小36年の「あゆみ」と伝統を感じます。その中には、私が若い時にご指導いただいた方がたくさんおられます。そんな学校に勤務できることに感謝しつつ、先輩方に安心していただける学校になるよう努力していきたいと思っています。

## よい子に育てるために、親が気をつけたいこと

『思わずやってる…子どもをダメにする親の習慣 8つ』という辛辣なタイトルの記事がありました。8つの中には、「夫婦喧嘩が絶えない」「悪口やゴシップが大好き」など、当然と思われるものもありますが、私は次の2つの項目に目を引かれました。

### 「子どもの外見を飾り立てる」

多感な子ども時代には、おしゃれ以外の様々な活動に携わらせるべきです。たとえば、子どもにとって、外で思い切り体を動かすことは欠かせません。

“かわいい”だけではなく、“心身が強い”ことも価値があるのだと子どもは学ぶべきでしょう。「かわいいね」と褒めることも大事ですが、それと同じくらい「賢いね」「優しいね」などと内面についても高く評価してあげてください。

小学生が鼻の美容整形手術を受けたなどという事例も聞かれます。子どもをペット化しては困ります。お子さんの内面のよさを大切にしていきたいですね。

### 「勝ち負けにこだわる」

お隣のお子さんは優秀なのに、それに引き換えあなたは……」というふうに、他の子と比較して子どもにダメ出しするのは、その子を発奮させるどころか腐らせるだけです。よその子だけでなく、兄弟姉妹でくらべるのも好ましくありません。

他人と比較するのではなく、子どもがどれくらい自分なりに頑張ったのかを評価してあげましょう。たとえば、昔は出来なかったけれど、今は出来るようになったことなど、子どもの成果を褒めてあげてください。

他人との勝負にこだわるのではなく、勉強であれスポーツであれ、子どもがその活動をいかに楽しいと感じて、夢中になれるかが大事です。そのためには、親は他人との勝ち負けに一喜一憂するのではなく、「あなたが〇〇できて嬉しい」と子どもの活動そのものを評価するようにしましょう。

学校での成績評価も相対評価から絶対評価に変わって久しくなります。部活を勝利至上主義で考えた高校では、大変な事件が起きてしまいました。お子さんの内なる小さな成長を認めてあげてください。

蛇足ながら、残りの4つは、

- 1: 自分の容姿についてダメ出しする
- 2: ヤケ食いする
- 3: 携帯電話に夢中になる、
- 4: お酒やコーヒーなどの嗜好品でストレス発散する ということでした。

## 新しい先生紹介

### 松山知世先生 です

小野陽一先生の後任として、松山知世先生が、本校に来てくださいました。学生時代には、ハンドボールで全国大会出場経験をもつスポーツウーマン、23歳です。

主に、5・6年生の理科の授業と安全教育を担当してくださいます。



## 今日も、明るく元気な挨拶が

毎朝、本校の校門や昇降口には、元気な挨拶の声が響いています。当番の登校班や代表委員会（児童会）の子が、がんばってくれているからです。

その人たちとは別に、個人で挨拶ボランティアを続けている子がいます。

6年生のFさんは、何と5年生の時からずっと続けて続けています。「朝、清掃ボランティアをしようとしたら、箒が足りなくてできなかったことがあった。

それで、挨拶ボランティアを始めました。去年より挨拶してくれる人が増えているのでうれしいです。」と話してくれました。

もう一人は4年生のM君、2学期には落ち葉掃きのボランティアをしましたが、落ち葉がすっかり無くなったので3学期から始めてくれました。

今朝も寒さの中、二人の元気な挨拶が際立っていました。

